





# スコットランドから「箏製作者水野佐平」の調査に 伊丹へ

郷土史  
こぼれ話  
33

宮城道雄氏来伊記念写真(前列左から水野佐平氏、宮城道雄氏、岡田利兵衛氏・岡田家にて)＝岡田家提供



桜花爛漫の4月6日、「第21回ことば蔵で風流を」が、ことば蔵で開催された。盛りだく

「ことば蔵で風流を」の様子



さんのプログラムの中で、久しぶりに聴いた箏の音は、まさしく日本の春の調べ。その微妙な音色に酔った。演奏者は菊葉真うさぎ氏(伊丹市芸術家協会会員)だ。

ことば蔵館長と話すなかで、去る2月中旬、「Sahel Mizuno」の調査のため、スコットランドから研究家の御夫妻が来日し、ことば蔵を訪ねたと知った。この御夫妻、夫は「和時計」を、妻は「箏」について研究される日本通で、来日はこれまで6回を数える。今回も4週間の滞在予定のなか、東京や大阪を訪問され、「水野佐平」の足跡をたどり、伊丹を訪れたのだった。

水野佐平は、箏製作者として、「水野楽器店」(宮ノ前2)を営みながら、和楽器の収集を行っていた。昭和26年(1951)、猪名野神社の東側に邦楽演奏場として「丹水会館」を開設する。柿落としては日本箏曲界の第一人者、宮城道雄氏を招待した。一方、海外での和楽器の普及の

発行などでスタンプを獲得できる。

市内の社会教育施設では、親子で楽しめる様々なワークショップや講座、スポーツイベントなど、新しい経験や学びの機会が盛りだくさんだ。

夏は、親子で市内の施設を巡り、伊丹の魅力を再発見する旅に出かけよう。

(交流事業担当)

【スタンプ帳配布】  
イベント期間中、各9施設にて無料配布(無くなり次第終了)【バッジのお渡し】  
5施設以上のスタンプを集めた方が対象。さらに全施設を制覇した方には特別なバッジをお渡し。場所は市役所2階社会教育課(平日)、図書館「ことば蔵」1階(土日を含む開館日)で。◎お問い合わせ先  
TEL 072・764・7814(社会教育課)  
◎詳しくは7月15日発行の広報伊丹をご確認ください

次回(兼題は、俳壇は「天の川」、歌壇は「幽霊」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は8月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円を進呈。下のQRコードを利用すると、スマートフォンからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。



## 蔵出しニュース

### 全館制覇を目指せ!!

#### 「施設を旅する!伊丹愛♡スタンプラリー」開催

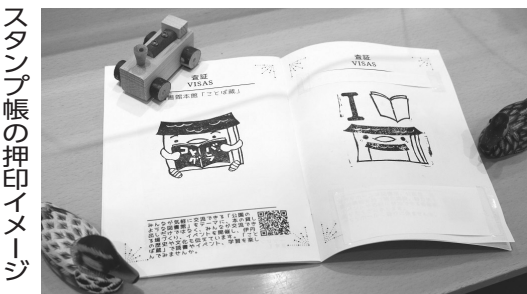


市内の社会教育施設の連携イベント「施設を旅する!伊丹愛♡スタンプラリー」が、7月21日(金)～8月27日(日)に開催される。

期間中に、市内の社会教育施設を巡り各施設の条件をクリア

してスタンプを集めると、オリジナルバッジが手に入る。対象は、伊丹市在住の、小学生以下の子どもとその保護者。

同イベントの主催は「伊丹愛ネットワーク会議」。令和元年度(2019)、市「社会教育委員の会」の提言に基づき、「社会教育施設間の情報共有



スタンプ帳の押印イメージ

ことば蔵では、ラジオ体操や、職業体験などの夏休みイベントへの参加や、本の記録を残せる「本の通帳」

や連携事業の充実、持続的なまちの発展」に向けて各施設の担当職員で構成されている。

同会は、令和2年度、都市ブランド・観光戦略課(当時)とコラボレーションした市制施行80周年記念事業を皮切りに、クイズラリーやシールラリーなど、年々その規模を拡大させながら多彩な事業を展開してきた。

今回の、スタンプラリーの対象施設は、全部で9施設(地図参照)。押印の条件や、スタンプの絵柄は、各施設の特徴を活かしたものになっており、施設を巡りながら様々な学びや体験ができる。

## 伊丹俳壇

「立春」坪内稔典 選  
(市立伊丹ミュージアム名誉館長)

### 最優秀賞

立春に母と文通ははじめます

芍薬(千葉市)

母はスマホやパソコンがうまく扱えないのだろう。それで思いついて母と文通を始めたのだ。ともあれ、文通はじめての立春が特別の日となった。親子の手紙を見てみたい気がする。

### 優秀賞

立春や口もとのみが初対面  
立春や地球は急に止まらない  
お揃ひのマグカップ買ふ春立つ日  
立春のほほうと笑うモアイ像  
立春の猫のしっぽへ結うリボン

井上火水(宮城県岩沼市)  
藤田 晋一(宝塚市)  
榎野 実(明石市)  
平 きみえ(伊丹市)  
屋部 きよみ(伊丹市)

## 伊丹歌壇

「紅」尾崎まゆみ 選  
(玲瓏)編集委員。神戸新聞文芸  
短歌選者。現代歌人協会会員)

### 最優秀賞

サンプルの口紅いくつも塗り合って  
永遠みたいな放課後にいた

芍薬(千葉市)

ドラッグストアの店先で口紅のサンプルを塗り合っている少女たちは、かつての私たち。学生時代の楽しい時間が甦る。結句の「放課後にいた」で一気に現在に引き戻されるドラマチックな展開が素敵。

### 優秀賞

地中海臨む公園には砲台ベニクラゲと見てる不死の夢  
わたくしの森に住む子が泣き出だせば記憶もろとも紅蓮へ落ちる  
ぼつぼつと山の傾りに色つけるモノのタッチの躑躅の紅よ

堺 紀彦(滋賀県高島市)  
睦月くらげ(埼玉県新座市)  
芝本 政宣(小野市)  
井上火水(宮城県岩沼市)  
田中 大貴(伊丹市)



写真協力Ⅱ西田写真館



今回は、生き生きとした笑顔が素敵な波多江みゆきさんを紹介する。

現在、伊丹市で社会教育委員の会の会長を務めるとともに、「私☆魅がく」代表（市公民館登録グループ）や、市人権教育指導員、市公民館事業推進委員など、多彩な顔を持っている。

波多江さんは、大学時代に心

## 現代人物

## 風景

# プラス言葉が幸運を引き寄せる

NPO法人らしーく副代表理事 波多江みゆきさん

育て中でも、地域に貢献できることに気づき、その後、伊丹市に戻り、子育て情報ミニコミ誌「チャチャねっと」を発行。この活動がきっかけで、ライターやパソコン講師を務める傍ら、伊丹市の男女共同参画施策オンブードのメンバーと、「NPO法人あなたらしく」をサポーター（愛称「らしーく」）を立ち上げる。

自身が心理学を専攻していたこともあり、人とのコミュニケーションや人権などを大切にすることの重要性に気づいた。それ以来、プラス言葉や笑顔を習慣づけることを心がけていると話す。

そうすることで、プラスの感情がやって来て、自分のまわりにたくさんのプラスな人が集まって来る事にも気づき、例えばマイナスの感情が自分の中に生



## いたみで ボラ活!

## 伊丹市文化財ボランティアの会

市民一人一人が文化財に親しみ街づくりを目指して



青いキャップとベストがトレードマークである「伊丹市文化財ボランティアの会」（以下、同会）は、平成8年（1996）に「郷土の文化財を愛し、学び、それを更に後世に伝える」ことを目指して設立された。同会の中心的な活動は、何と言っても文化財ガイドの実践だ。

3月26日、旧岡田家住宅で行われた同会会長の末次弘幸さん（76）によるガイドⅡ写真Ⅱに同行し、お話を伺った。

末次さんのガイドは、「伊丹諸白」と「灘の生一本」が日本遺産に認定された経緯や、歴史的背景を中心とした説明が、とてもわかりやすく、頭の中にスッと入ってくる。参加者も話を聞き逃すまいと真剣に耳を傾け、カメラを向けるなど、熱心さが伝わってきた。

同会は、今年で27年目を迎え、当初25人で発足した会員数は、現在45人となった。会員は毎年1〜3月に市が開講する「文化財ボランティア養成講座」の修了生有志で構成されるが、未受講者も入会ができるよう準会員制度を導入するなど、広く会員を増やす工夫をしている。

同会は、大きく5つの班で構成され、ガイドを行う「史跡ガイド班」、旧岡田家住宅への来訪者をガイドする「岡田家ガイド班」、活動PRを担う「広報班」、会員対象の勉強会や屋外研修を担当する「研修サロン班」、小学生などジュニア向けの事業を担う「学習支援班」がある。会員相互で学び合い、親睦を深めながら、情報を発信し、市民や市外からの来訪者との出会いやふれあいを楽しんでいる。

この夏休みには、「学習支援班」が中心となって、民話の紹介や、ものづくり体験をとおして文化財に興味を持って貰う「子ども寺子屋」を、ラスタホールやことば蔵で開催予定だ。会長は「こうした子ども向けの活動を活発化させながら、会員数の維持と若返りを図るため、子ども達の親世代である30〜40代の会員も増やしたい。そして今後、子ども達が気軽に会に参加できるジュニア部門を立ち上げたい」と将来を語った。

伊丹の文化財について学びたい、ガイドに興味がある方は、お気軽にご連絡を頂きたい。

【養成講座に関する問い合わせ】  
都市活力部まち資源室  
文化振興課（文化財担当）  
Tel 072・784・8090

【準会員制度・ガイドの申込み】  
同会のホームページを参照

（米田 ともこ）

現在、スワンホールなどで日々コミュニケーションや人権について伝える活動が続いている。「自分をほめる習慣をつけることで、良い環境、良い出会いを増やし、大人も子どもも、自分のことも相手のことも大切にできる街になれば嬉しい」とこやかに話す。

取材では終始笑顔の波多江さん。これからも伊丹をプラスに導いてくれるに違いない。

※NPO法人あなたらしくをサポーターのホームページはこちら

（四方 美幸）



## 老舗探訪

## 野菜の店 キタノ

伊丹市中央5丁目2-26

Tel 072-772-0670

水曜定休

今回、紹介するのは、Viva伊丹サンロード商店街のほぼ中央に位置する「野菜の店キタノ」。創業は昭和10年（1935）。現在の店主である北野安宏さんⅡ写真右から2人目Ⅱは3代目で、平成25年（2013）に継がれた。今年で90年目を迎える。現在は2代目が3代目をフォローする形で、営業されている。

いつも店頭には、季節の野菜が、所せましと、ざるで盛られている。春は筍、夏は芋蓼、秋はさつまいも、冬は白菜などだ。どの野菜も新鮮、そして安い。私自身、かれこれ10年以上、このお店を最良にさせてもらっている。

3代目にお話を聞くと、「僕も定年になる年齢だし、跡継がないので、いつまで出来るかな」と話された。少し寂しい気持ちになったが、これからは野菜はこのお店で揃えたい。



郷土 米粉100%のパン

土産品 紹介

が おさん家のパン屋

元々は小麦粉を使っていたが健康意識と他の店との差別化を図るため、試行錯誤しながら体に優しく美味しい米粉100%のパンを開発。今では、豊富な品揃えで、総菜・菓子パンなど30種類以上のパンが店内に並ぶ。特に食パンに対するこだわりは強い。米粉の性質が、穴が空いた食パンが出来ることがあった。当初は、安く販売するしかなかったが、知り合いから、穴に詰め物をしたらどうかと提案され、あんこなどを入れてみたら、大ヒット。たまに販売されるレアな商品として、好評だ。同店では、賀夫さんはパン作

りに専念。千絵さんは各地でアレンジしたパンの販売や、ワークショップの開催などを行っており、2人で連携して米粉パンを広めている。特に参加者が具材を持ち寄るサンドイッチ作りイベントは、ミラクルサンドとして人気を博している。

「今後も、パン作り教室など様々なイベントをとおしてパン作りの楽しさを知ってもらい、地域に貢献していきたい」と語る。ぜひとも、米粉パンを一度ご賞味いただきたい。

（阪本 優子）

が おさん家のパン屋

伊丹市昆陽東1丁目5-6  
9時〜18時、水曜・日曜定休  
Tel 072・743・4429  
同店のホームページはこちら

Viva伊丹サンロード商店街

ここで、サンロード商店街について、少し触れてみたい。

大正9年（1920）に阪急伊丹線が開通すると、旧阪急伊丹駅のある中央4丁目周辺に賑わいが生まれてくる。やがて経済成長期を迎えると、周辺には市場や商店街が縦横に広がり活況を呈す。1960年代には、関西スーパー、スーパーエースの2軒のスーパーマーケットが開店。一帯はいよいよ伊丹の中心的な商業地として栄える。

昭和59年には近辺の商店主が振興組合をつくり、T字形の通りに沿ってアーケードを新設し、現在の「Viva伊丹サンロード商店街」が誕生。

現在、商店街には、これまでの物販業にとどまらず、飲食店や、医院、保育所など、時代のニーズにマッチしたお店や施設が並んでいる。

（平 きみえ）



# 公募で新団員を確保

伊丹市消防団「団離れに歯止め」

「自らの地域は自らで守る」。こんな使命感を持った住民有志で組織された消防団。地元の安全安心を守る地域防災の要だが、ライフスタイルの変化や負担の重さなどから近年、全国的に「消防団離れ」が進んでいる。この逆境を打開するため、伊丹市は令和4年(2022)4月施行で団員の任用条例を改正。団員報酬を引き上げたり、応募資格から年齢制限の上限を撤廃したりするなど、団員確保に向けて組織的な公募に踏み切り、新団員14人を任用した。団員募集の新たな取り組みの背景を探る。

消防団事務を所管する市消防局消防総務課によると、新団員は従来、消防団活動の地域密着性を踏まえて、地域の各分団員が有志を募ったり、勧誘したりして地元住民を中心に確保していた。

この結果、団員の慢性的な人手不足に加え、若手の減少による団員層の高齢化が目立つようになった。

ところが、近年の少子高齢化による人口減や、地元以外の勤務地が増えるなど生活様式の変化、さらには若年層を中心としたライフスタイルの多様化に伴



初訓練に取り組み新入団員ら。5月14日、消防局で

年比約2万1千人減の約78万4千人と、初めて80万人を割って過去最少を更新。ピーク時(昭和27年の200万人)の4割に減少した。

中でも活動の中心を担う20代と30代の入団者が大幅に減って高齢化に拍車がかかり、将来の消防団組織の継続が不安視されるケースも見られるという。

こんな「消防団離れ」に危機感を抱いた消防局は、団員確保に向けて処遇改善などの歯止め策を協議。令和3年4月に「消防団員の報酬等の基準」を策定し、報酬額の見直しを行うよう全国の自治体に通知した。

## 年齢の上限を撤廃

伊丹市消防団も例外ではない。

この5年間の団員数は、ほぼ毎年定数(103人)割れが続いており、新規採用や中途入団でなんとか補充しているのが実情だ。そこで令和4年度の消防団活動方針に「分団員公募制の導入」を盛り込み、「市内全域の各世代」を対象に幅広い地域住民から団員を募っている。

## 新団員が初訓練

伊丹市は令和4年3月、国の基準を踏まえて市の消防団員任用条例を見直し、報酬額の引き上げなどで団員の処遇改善を図った。併せて任用条件を改め、従来「45歳未満」としていた年齢上限を撤廃。応募資格を「市内在住の18歳以上」と大幅に緩和し、退職後や子育て後に社会

貢献を志す元気な人材の確保を視野に、幅広い世代に積極的に門戸を開いた。

さらに、団員のまま活動を一時休止(最長3年)できる休団制度を新たに導入した。期限付き転勤や長期出張、病気や介護のほか、妊娠や育児といった子育て世代などが対象だ。さまざまなライフステージに合わせて団員が活動を継続しやすいよう環境を整え、一時的な要因による退団に「待った」をかけた。

市消防局の担当者は「退職したり、子育てが終わったりした幅広い、元気な世代に入団してもらい、持ち合わせた多彩な技能や力量を活動に生かしていくことが新しい消防団のあり方」と説明する。

今回の団員公募では、「16人程度」の募集(令和4年6月、翌5年3月)枠に22人の応募があり、面接を経て大学生や会社員、定年退職者などを含む10代から60代の男女14人が採用された。

新団員は消防団長から4月1日付で辞令交付を受け、5月14日に消防局で行われた初訓練に参加。敬礼や整列、ホース延長ポンプ車放水など基本的な技の習得に汗を流した。

最年少の大学生、眞壁陽太さん(19)は「大鹿分団」は「救急救命士の資格を持った消防士を目指す」。今回の公募で唯一の



林やよい

伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまのまい」連載中。

女性、福永久仁子さん(63)は「本部付」は「普通救命講習を3回受けた経験を生かして、人命救助に役立ちたい」とそれぞれ抱負を話した。一方、最年長の男性(66)は「下河原分団」は「敬礼をする職場に憧れて応募しました。全力で頑張ります」と意気込んでいる。

新団員は今後、ポンプ操法や技術強化、情報伝達などの実戦訓練に取り組み、平時は地域住民への防火指導や応急手当での普及啓発など地域に密着した活動に携わる。そして来年1月には新春恒例の晴れ舞台、消防出初め式に臨む。(奥山正弘)

## 「積極的な活動を」

伊丹市消防団長



今回の公募による新入団員に対して、伊丹市消防団の久保善一団長(63)は「写真」は「消防団は人助けの集団。出動要請があるときは、必ず困った人がいるとき。積極的に活動してほしい」とエールを送っている。

## 新年度が始まりました

新しい年度が始まり、拙者の職場も例にもれず、人事異動があった。たいそう世話になった部下が変わり、拙者以外はオール女性ということになり、コミュニケーションなるものを取りのめが大変である。

思えば、1年前は前に勤めていた職場を退職する、ということとで酒飲みの拙者に一升瓶をくださる方が多く、ありがたいうち、気持ちを持ちながら、長期間にわたり、美味しい日本酒を楽しめた。

## 次のステージへ

コロナとやらが落ち着いて、次の段階へ移行した。それに伴い、外で呑むことも多くなり、酒量が増えてきた。もちろん、体の重さも増えてきている。



「塩だけで呑める」タイプの酒飲みではないので、あてをたくさんいただきながら、延々と呑み続ける方である。なので、食べて呑んで、しかも新たな職場は家からかなり距離があるため、なかなか運動(拙者は意外とジム大好きなのだが)できず、体型もよろしくない方向へ一直線に向かっている。

そういえば、拙者が仲良くさせていただいている方が呑んだ日、呑んでない日を勝ち負けで数えて、呑んだ日は負けの方にカウントし、「今月は負け越した」と言っている。拙者もかなり、そういう意味では負けが込んでいるが、これだけ呑めるのは元氣な証拠と思いい、無理しない程度で呑み続けたい、と思える今日この頃である。(ときわ 喜多)



五月・六月実がなれば、枝からふるおとされて、きんじよの町へ持ち出され、何升何合ばかり売。

もとよりすつばいこのからだ、しほにつかつてからくなり、しそにそまつて赤くなり。

七月・八月あつころ、三日三ばんの土用ぼし、思へばつらいことばかり、それもよのため人のため。

しわはよつてもわかい気で、小さい君らのなま入り、うんどう会にもついて行く。ましていくさの時、はなはなはならぬこのわたし。